

(別添2)

## 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所  
事業所名（施設名）長和町立ながと保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 全体的な計画の作成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1 全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成している。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2 全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて作成している。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3 全体的な計画は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して作成している。</li> <li><input type="checkbox"/> 4 全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して作成している。</li> <li><input type="checkbox"/> 5 全体的な計画は、定期的に評価を行い、次の作成に生かしている。</li> </ul>	<p>○長和町教育大綱・方針と保育理念に基づき保育目標が定められ、保育の内容に関する全体的な計画が作成されています。</p> <p>○全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して定期的に振り返りと見直しをし、評価を行って、次の編成に反映したり全職員への周知共有を図ったりするようにお願いします。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</li> <li>□ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</li> <li>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</li> <li>■ 9 内装等には、木材を利用している。</li> <li>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</li> <li>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</li> <li>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</li> </ul>	<p>○園舎の内装等には木材を多用した温かみのある空間で、広い廊下の園庭側には、所々にままごとコーナーが用意されているなど、子どもたちが、くつろいだり落ち着ける環境設定に取り組まれていました。</p> <p>○部屋数にもゆとりがあり、食事や睡眠のための心地よい空間が確保され、24時間換気の設備等で、室内が安全に快適に過ごせる状態に保持されていました。</p> <p>○発達に合わせた子どもの興味や関心に応じた遊具等が用意され、動と静の遊びごとに遊びの環境を設定するなどの創意工夫がみられました。</p> <p>○未満児の集団移動に乳母車を利用していましたが、園舎内外で同じ物を利用している様子が見られました。衛生的な配慮として別の物を使用できるように用意した方が望ましいと思われます。</p> <p>○手洗い場・トイレは、明るく清潔で、安全であるよう意識した工夫や配慮がされていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	■	13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	○個々の家庭環境や生活リズム、発達状況を把握し、担任を中心に加配保育士や補助の保育士がチームとして子どもと関わり、子どもの気持ちに沿ったクラス保育がされています。その状況が園全体の保育士間でも共有され、より質の高い適切な対応がとれるような取組を期待します。  ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう保育士が ゆったりと対応し、子どもの気持ちにそった言葉がけやスキンシップを心がけている様子が感じられました。  ○子どもの生活や遊びが主体的なものとなるよう、子どもの気持ちを受け止め、せかさずじっくり待つ姿勢が大切であるということに、職員は気づき反省する姿が自己評価から伺えました。今後、園内研修等を通して全職員の対応に反映されるよう取組み、保育の質の向上を期待します。
				■	14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。	
		■		15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。		
		□		16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。		
		■		17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。		
		■		18 せかさず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。		
		③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	■	19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	○生活習慣を身につけるための指導計画が作成され、保育士自身がその大切さを理解して援助をしています。  ○自分でやろうとする気持ちを大切にしてい、できたという達成感を味わえるようにしています。保護者と連携をとりながら子どもの発達に応じ、一人ひとりに合わせた基本的な生活習慣の習得ができる支援の工夫をしていました。  ○遊びや食事、休息等、子どもの生活リズムに沿って一日の流れが設定されています。
		■	20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。			
		■	21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。			
		■	22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。			
		■	23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>□ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>○年齢や発達に応じて子どもの興味関心に沿った手作り玩具や素材を用意して各遊びのコーナーを設け、環境構成するなど、子どもが主体的に取り組める保育の工夫が見られました。収穫した自然物（木の実や枝など）で制作した物や季節感のある製作物の展示コーナーがあるなど、表現遊びへの興味や関心がもてるような取組がされていました。</p> <p>○戸外活動や運動遊びなど、年齢や体力を考慮した計画が実施されています。                      ・3歳以上児は外部講師により定期的に運動あそびを取り入れています。                      ・廊下で運動遊びができるようにビニールテープでコーナーが作られていました。                      ・近隣の公園や小学校への散歩                      ・鬼ごっこや集団遊び</p> <p>○年長児は地域の施設に出かけて特色ある活動を見聞きし、体験する機会が設けられています。他の年齢の子どもたちも身近な地域の資源との接点を持ち、より豊かなふれあいや体験ができるような取組を期待します。</p> <p>○子どもの発想や意欲を大切に様々な表現活動ができるように環境を用意して援助し、保育士もその思いに共感して具現化する保育を行っていました。今後も継続的な遊びの発展についての取組に期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>○年間指導計画に基づいて個別計画を作成し、担当保育士間で連携を、安心して過ごせるような生活と遊びの場や環境を用意し、愛着関係が持てるような個別の関わりに配慮されていました。</p> <p>○発達過程や個人差に応じた遊びや玩具を提供することに配慮し、取り組んでいました。</p> <p>○必要に応じ保護者と面談の機会を作ったり、個別の連絡帳を通して日々の園での様子を伝えるなどして、家庭の様子を把握しながら連携を密にしています。</p>
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でするとする気持ちを尊重している。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。</li> <li><input type="checkbox"/> 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○全体的な計画に基づいた指導計画や個別計画に応じ、養護と教育が一体となった保育に向けて、事故防止や安全対策に配慮した生活と遊びの環境設定に配慮し、取り組まれています。</p> <p>○一人ひとりの子どもの様子に寄り添った保育の関わりに心掛けて取り組んでいる様子が伺えました。</p> <p>○個別の連絡帳や個別面談等でのやりとりを丁寧に行うことで保護者と連携をとりながら保育に取り組んでいます。</p> <p>○未満児クラスの保育士同士での連携による情報を共有しての適切な保育環境設定や交流の取組がされています。さらに3歳以上児の子どもたちとの交流の機会も計画的に無理なく行えるような取組を期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="898 193 1592 272">■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li data-bbox="898 312 1592 392">■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li data-bbox="898 424 1592 528">■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li data-bbox="898 544 1592 619">□ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○保育室内や廊下の環境で、遊びや作品展示コーナーを設置するなど主体的な活動を促す配慮が見られました。</p> <p>○個々の作品を共同の壁面製作にしたり、集団活動の写真の展示や鬼ごっこなどの集団遊びの継続的な活動などから、友だちと共に楽しみ取組む様子が伺えました。</p> <p>○他クラスの保育の工夫や取組状況に付いての情報共有が少ないとの意見がありました。異年齢交流での豊かな体験についての取組を期待します。</p> <p>○就学に向けて、個々の発達状況や保育の取組について資料を基にした、より丁寧な連携を期待します。</p>
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="898 695 1592 743">■ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。</li> <li data-bbox="898 799 1592 847">□ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。</li> <li data-bbox="898 879 1592 927">■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</li> <li data-bbox="898 959 1592 1007">■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。</li> <li data-bbox="898 1038 1592 1086">■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li data-bbox="898 1118 1592 1166">■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</li> <li data-bbox="898 1214 1592 1262">■ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。</li> <li data-bbox="898 1310 1592 1366">□ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○担当者により取組状況にバラつきが無いように、園全体で一貫した対応の理解と職員間の情報共有についての取組を期待します。</p> <p>○障がいのある子どもの保育については、専門家の定期的な園訪問による園児の理解や保育の実状に応じた適切な対応についての指導がなされていました。担当職員は専門家からの助言を活かした環境の設定や保育対応に取り組まれていました。</p> <p>○障がいのある子の担当クラス以外の職員とも保育の実践についての取組を話し合い共有できるような園全体の専門性の向上に向けた学び合いの取組を期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			<p>⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b)	<p>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</p> <p>■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</p> <p>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</p> <p>■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</p> <p>■ 63 子どもの在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</p> <p>□ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</p> <p>□ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</p>	<p>○「入園のしおり」に1日の保育時間の内容についての説明があり、園での生活の流れが計画的に行われています。</p> <p>○必要に応じて担当の保育士が保護者との面談の機会を作り情報共有を図るなど、家庭との連携について配慮しています。</p> <p>○保育時間が長い子どもへの保育については、関係機関とも連携をとり、さらに職員体制を整備して、職員間の連携を密にしながら、より丁寧で適切な対応や保護者支援について取り組まれることを期待します。</p>
			<p>⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	b)	<p>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</p> <p>■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>■ 68 保護者が、小学校以降の子どもたちの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>□ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</p> <p>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</p>	<p>○就学への期待が高められるような行事や小学生との交流の機会が設けられています。</p> <p>○年中・年長児は教育相談員を交えて保護者との個別懇談会を行っています。</p> <p>○スムーズな就学に向けて、小学校と密な連携をとり、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム等の、より専門的で具体的な計画を作成して取り組まれることを期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</li> <li>■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</li> <li>■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。</li> <li>■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</li> <li>■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</li> <li>■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。</li> <li>■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</li> <li>□ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。</li> </ul>	<p>○園児の健康管理の内容や取組については「入園のしおり」や個別の連絡帳で適宜保護者に伝えられています。</p> <p>○特に未満児の午睡中は、保育士が近くで様子を見守り、定期的に状況をチェックして対応しています。</p> <p>○園児の健康と安全の確保は、保育の基盤です。一人ひとりの健康状態や発達・発育状態を専門的に把握し、個々に応じた身心の健康保持のための取組について確認したり、環境や対応等を見直したりして実践を継続されることを期待します。</p> <p>○保護者に対して乳幼児の発達の特徴に応じた健康に関わる必要な情報提供についての取組に期待します。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>□ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ、保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<p>○健康診断及び歯科検診は、計画に基づき実施されています。</p> <p>○診断や健診の結果が、より豊かに保育内容に活かされることを期待します。</p>



評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>□ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>□ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○アレルギー疾患や慢性疾患のある園児については、ガイドラインに基づいたマニュアル等により、栄養士との面談・聞き取りをして、医師からの指示書に応じ保護者と献立表のやりとり等で確認し合って連携を密にして除去食が提供されています。</p> <p>○食事の提供については、名前のカードとトレイで区別し、給食員と保育士間で連携した対応がされています。日々の対応場面では、様々な職員が関わる中での誤食を防ぐためにも、毎日の確認の徹底が必要です。</p> <p>○今後も安全で適切な対応が継続されるよう職員の意識や専門性を高めるために、定期的な研修についての取組を期待します。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>	<p>○年齢や発達、個人差に応じて子どもたちが落ち着いて食事を楽しむための配慮や援助の取組がされています。</p> <p>○畑での野菜作りを通した収穫体験から食育に繋がっています。</p> <p>○3歳以上児クラスでは、配膳の際に子どもたちが配膳量を自己判断して加減する取組もされていました。また、苦手な食材も無理のない範囲で少しずつ食べられるように家庭と連携をとり支援を工夫されています。</p> <p>○園児の希望献立を取り入れて、食事への関心が高められるようにしています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食 べることのできる食事を提供 している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="898 193 1592 240">■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li data-bbox="898 288 1592 320">■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li data-bbox="898 368 1592 416">■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</li> <li data-bbox="898 464 1592 512">■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li data-bbox="898 560 1592 592">■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li data-bbox="898 639 1592 671">■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li data-bbox="898 719 1592 767">□ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li data-bbox="898 815 1592 863">■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>○町の衛生管理マニュアルにより、地域食材を利用して、季節感があり地域の食文化や行事食などを取り入れた献立メニューを実施し、子ども一人ひとりの発達状況や体調等の個人差を考慮して食事が提供されています。</p> <p>○毎日の残食等の状況把握についてはクラスごとに連絡ボードが用意され、給食室と保育室との連携が図られています。</p> <p>○調理員や栄養士が、子どもの喫食状況を実際に見て把握する機会を設けたり、園児の食への興味関心が高められるように具体的に関わったりするような食育の取組を期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	○「入園のしおり」や園だより、週だより、クラスだよりにより、保育の意図や内容を保護者に伝えています。日常的には連絡帳や玄関出入り口のホワイトボード等で情報通知し、送迎時にコミュニケーションをとったり、行事や保育参観、個別懇談等で、こどもの成長を共有できるよう支援しています。
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>■ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>□ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	○長時間保育利用児やバス通園児も多く、保護者との直接のコミュニケーションが取りづらい状況の中で、担当職員は連絡帳のやりとりや個別面談の機会を設けて保護者との意思疎通に配慮しています。  ○保護者の不安や困り感に応じて、きめの細かい丁寧な継続した相談支援ができにくい状況がある様子なので、関係各所とも連携して適切な対応が継続してとれるような組織的な相談支援体制と取組を期待します。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>□ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>□ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>○職員は毎日の送迎時の様子や視診から、虐待等権利侵害を受けている子どもの兆候を見逃さない様に、子どもの心身の状態・家庭での養育状況の把握に努め、虐待等の早期発見・早期対応・予防等の取組をしています。</p> <p>○虐待等権利侵害の可能性がある場合は、関係職員と関係機関とが連携をとり、情報を共有し対応する体制がとれています。</p> <p>○更に全職員の意識を高めるために、虐待等権利侵害についての研修を整備して継続し、予防に努めていただくことを期待します。</p>
3 保 育 の 質 の 向 上	(1)	保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	c)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>□ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>□ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>□ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>○保育士一人ひとりは、保育実践の振り返りが出来ていました。保育実践の振り返り（日々の保育や行事等の反省、期毎の反省など）を職員会議や園内研修を通じて、定期的・体系的に行い、職員間で共有することの難しさを感じました。年度途中であっても指導計画を見直して改善し、園全体で子どもの育ちに沿った保育を共有して学び合って、より良い実践が積み重ねられることができることを期待しています。</p> <p>○自己評価や指導案の評価・反省を活かし、保育の質や職員の専門性の向上に向けた組織的な取組が更に充実することを期待します。</p>